YAMAGATA★IBUKI Vol.123

山形いぶき

YNA 夢・ナーシング・愛

TOPICS

- 地区別法人会員会並びに職能委員長会
- 看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ
- 研修報告・支部活動
  協会立訪問看護ステーション活動
- 助産師出向支援モデル事業
- うちの自慢のナースマンⅢ
- ナースセンターだより

平成25年度会員数
（11/6現在）

保健師	396
助産師	365
看護師	6,374
准看護師	249
計	7,384

Photo：ナナカマド

山形県看護協会ホームページ ▼

http://www.nurse-yamagata.or.jp

県ホームページ「すまいる山形暮らし情報」からもリンクできます。

▼ 山形県看護協会 検索

機種によってはアクセスできない場合があります

平成25年度地区別法人会員会・職能委員長会を終えて

副会長　松田　光子

10月22・23日の両日、山形市のメトロポリタン山形を会場に、「平成25年度地区別法人会員会・職能委員長会【北海道・東北地区】」が開催されました。

地区別法人会員会・職能委員長会は日本看護協会が全国を6地区にわけて開催するもので、坂本会長をはじめとして副会長、専務理事、常任理事などの本協会役員と地区看護協会長・地区職能委員長が法人会員会と3職能4委員会ごとに意見交換を行うものです。今年度の北海道・東北地区については山形県看護協会が会場当番となったものです。

白熱した討議を開催

協会ニュース10月号に中国・四国地区での開催内容の記事が掲載されていますが、山形会場でも「看護将来ビジョン」の概要案や各職能の抱える様々な課題について、熱心に意見交換がなされました。

1日目会議終了後の懇親会では山形県健康福祉部大泉部長様にもご出席いただき、川村会長とともに歓迎の挨拶と山形県のPRに努めていただきましたが、会食献立では「いも煮」に「つや姫のおにぎり」を、アトラクションでは民族文化サークル四方山会（よもやまかい）による「花笠踊り」披露など山形らしさを十分にアピールして、本協会及び各県の役員の方々を心をこめて“おもてなし”しました。さらに、四方山会のインストラクターの指導の下、山形県が介護予防の一環として推進しているロコモティブシンドローム※予防体操「花の山形！しゃんしゃん体操」を参加者全員で体験し、楽しさと健康づくりを兼ねた懇親会となり、参加者の方々にも好評のうちに終了することができました。

みんな一緒に花笠踊りで盛り上がった懇親会

今年度の大きな事業の一つであった法人会員会・職能委員長会も無事終了し、また教育研修事業や各委員会活動、各支部活動なども順調に進められておりますが、早くも来年度の事業計画を考える時期に来ております。今後の看護協会活動がより充実したものになるために、皆様からのご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。

（※ロコモティブシンドロームとは、運動器の障害のために移動能力の低下をきたして、要介護になっていたり、要介護になる危険の高い状態のこと）

山形県健康福祉部との業務推進懇談会を開催

9月5日（木）13：30～16：00　山形県看護協会にて

常任理事　大竹久子

山形県看護協会事業を推進する上で、行政との連携や情報交換は大変重要であります。当協会の山形県健康福祉部との業務推進懇談会は、平成9年頃より、会館建設への協力依頼の陳情という形で話し合いを持ったのが始まりで、以来、毎年開催しています。

経過を重ね、平成23年度より重点事業に沿って、山形県と山形県看護協会との情報交換をするスタイルとなりました。山形県側からは大泉享子健康福祉部長はじめ健康福祉企画課、健康長寿推進課より課長、補佐等8名のご出席をいただきました。また、協会側は理事会のメンバー16名に事務局より課長等5名が出席しました。

活発な情報交換となった

懇談会は、協会にとっては山形県の保健事業を知るとともに、協会事業について行政の理解を得る貴重な意見交換の場であり、行政との連携推進の重要な機会となっています。
下記の事項について情報交換をしました。

1. 看護職が働き続けられる職場づくりの推進について
- 1）看護職確保対策について
  （「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」の進捗状況、離職者のナースセンター登録）
- 2）勤務環境の改善について
  （介護・福祉・在宅領域の勤務環境改善）

2. 看護の質向上のための継続教育の強化について
- 1）「山形方式・看護師等生涯サポートプログラム」終了の平成27年度以降の新人看護師研修制度、看護師キャリアアップ等について
- 2）介護・福祉・在宅領域で働く看護職の資質向上に向けた連携について
- 3）「介護職員等による痰の吸引等の実施に伴う指導者研修」の継続について

3. 長期的な療養を支える在宅ケアの強化について
- 1）在宅医療を支える在宅医の拡大と訪問看護師の確保について
- 2）ショートスティやレスパイトの体制整備について
- 3）訪問看護の質向上と人材育成のための環境整備について

4. 三職能の課題解決に向けた取り組みについて
- 1）「新・保健師活動指針」の周知と推進の取り組みについて
- 2）助産師の専門性発揮のための人材確保やスキルアップについて
- 3）看護師等の雇用の質向上のための取り組みについて
- 4）高齢者施設で働く看護職の研修参加の推進に向けた連携について

懇談会は、活発な情報交換の場となり、終了時には参加者全員でこの会の意義や継続について確認し合いました。

Are You Happy? 看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ開催

平成25年9月11・12日の2日間、「看護職のWLB推進ワークショップ」が山形県看護協会会館にて開催されました。公開講座参加者を含め、133名の参加者がありました。

この取り組みは、看護職がいきいきと働き続けられる職場づくりの推進と労働環境の改善をめざしたもので、参加6施設がインデックス調査（施設の勤務環境調査）の結果を分析・整理し、今後の課題を明確にしてアクションプランを作成しました。楽しく、活気あるディスカッションがなされ、参加者アンケートからは有意義なワークショップだった、課題が明確になった、病院全体で取り組めるので結束できる等の声が寄せられました。

ワークショップの様子です。みなさん、いきいきと取り組んでいますね～

公開講座

フォローアップワークショップを開催します!!

平成26年1月30日（木）に、平成25年度WLBの取り組みを行った6施設が、「4カ月間の取り組みの成果と課題」を発表します。

「患者と共に取り組む医療安全公開フォーラム」を開催して

医療・看護安全対策委員長　高橋　ひとみ

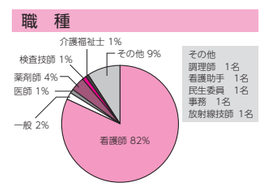
2013年8月24日（土）、患者と共に取り組む医療安全公開フォーラムを山形県看護協会会館で開催し、約140名の参加がありました。

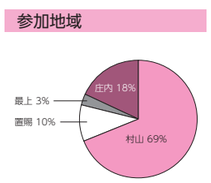
今回は、「地域に広がる医療安全」について平林明美先生（日本看護協会出版会損害保険部「看護職賠償責任保険制度」サービス推進室部長（兼）室長）より基調講演をいただきました。シンポジウムではそれぞれの立場で、折居和夫先生（医師）、篠田太郎先生（薬剤師）、石井春美先生・菱沼松子先生（看護師）、石沢セイ子先生（患者家族）の5人の発表がありました。医療安全は、医療現場だけにとどまりません。普段から住民への意識付けが必要であり、ケアする側は対応を在宅、施設、地域へとつないでいくことが今後ますます求められてきます。また発表から、安全確保には患者と目線を同じにし、丁寧な関わりが何より大事であることを改めて考えさせられました。

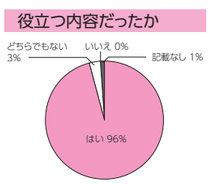
これからもフォーラムの場に、多くの方々に参加いただき、山形の医療・患者安全が全体にレベルアップできれば良いと願っています。

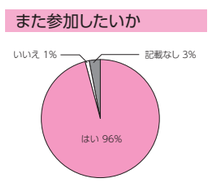
それぞれの立場からの発表に聞き入る参加者

参加者アンケート結果回収率65%









訃報のお知らせ

今野　アキ子様（86才）が11月7日、ご逝去されました。

多大なご功績に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。
・昭和60年～平成2年（6年間）日本看護協会山形県支部長　・平成18年から日本看護協会名誉会員
日本看護協会と山形県看護協会より弔電と花をあげさせていただきました。

認定看護管理者 ファーストレベル教育課程

～80名の受講生と共に過ごした26日間の研修～

山形県看護協会教育研修課　金子 純子

平成25年度認定看護管理者ファーストレベル教育課程は5月30日から開催し、8月26日最終日までの26日間実施いたしました。「本教育機関は、成人学習の考え方を基本に、学習者の主体性を尊重し、自己決定を促すとともに学習者の創意工夫や自由な発想を引き出し、新たな発見や革新を促す場を提供する」（認定看護管理者ファーストレベル教育課程―教育理念抜粋）。県内各施設から参加した受講生80名は、それぞれの参加動機と課題を持ち受講に臨みました。4月に本協会に入職した私にとって、認定の企画運営は初めてのことであり、80名という多くの受講生と講師の先生方にどのように対応していけばよいのか悩む中で、受講生の一生懸命な姿勢や温かい言葉は、私のエネルギーになりました。また、素晴らしい講師陣の講義は、受講生はもとより私自身の学びともなりました。講師の素晴らしい話に涙ぐみ、笑い、たくさんの感動を頂きました。多くの受講生から、「レポートの課題に悩み難しかったが、同じ看護職としてのネットワークも広げることができ楽しかった。」との評価をもらいホッとしています。受講生と共に過したこの貴重な時間を糧にして、今後の教育研修に活かしていきたいと思っております。そして、80名の受講生が課題を達成し、今後の山形の看護界を担う人材に大きく成長してくれることを祈念したいと思います。

受講生全員で記念写真

新人研修会

「新人研修Ⅳ　ファイナル」を実施して

教育委員　峯田 弥生

10月28日（月）、研修会「新人研修Ⅳファイナル」を開催しました。第一部は福島大学総合教育研修センターの五十嵐敦教授を迎え、「新人のためのストレスマネジメント」と題しての講義。第二部は山形県看護協会の川村良子会長より、看護協会の役割や生涯学習の重要性についての講義。第三部は「2年目に向けてのメッセージ」と題して、卒後3～5年目の助産師　鈴木結さん（山形大学医学部附属病院）、看護師　小松恭輔さん（県立中央病院）、安達洋子さん（東北中央病院）の発表でした。盛り沢山の内容でしたが、中でも第三部の先輩方のメッセージでは、受講者が真剣に聞き入っている様子がうかがえました。新人時代を乗り越え、自分のキャリアを開拓している先輩方の生の声は、新人の皆さんがこれからの自分の成長する過程をイメージする良い機会だったと思います。

先輩からのメッセージに励まされて

最後に、新人研修4回全て受講された150名に修了証が発行されました。新人の皆様、お疲れ様でした。今後自分がどう進んでいくか、目標を持って自己のキャリアアップに繋げてくれることを期待しています。

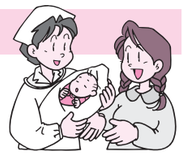
山形県看護実習指導者講習会フォローアップ研修の開催

山形県看護協会教育研修課　石田知恵子

山形県主催の看護実習指導者講習会は今年で２４回目の開催となり、受講者総数は８１１名となりました。これまで受講された方々からの要望を受け山形県の委託により、１０月２５日に初めてフォローアップ研修を開催致しました。新たな情報を得る、各施設の課題や工夫を共有する、指導をふり返り効果的な指導につなげるなどを目的に、講義、実践報告、グループワークの内容で行われました。参加者は実習指導に携わっている方々５８名で、病院、訪問看護ステーション、介護老人保健施設からの参加となりました。参加した方々は現在のカリキュラムの背景や学生の特徴を知り、改めて実習指導者の役割の大きさを感じていました。また、多くの方が実践報告や意見交換からすぐに活用できるものを得たという感想を述べていました。この研修は次年度も継続して開催を予定しております。ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしております。

今年度、二つの新たな事業に取り組んでいます！！

1 日本看護協会「助産師出向支援モデル事業」の実施（委託）



日本看護協会は、厚生労働省の看護職確保特別事業として、平成25年・26年に「助産師出向支援モデル事業」を行うことに伴い、山形県看護協会は実施県として事業展開をすることになりました。これは、助産師の偏在是正、看護学生の実習施設の確保、助産師のスキルアップ等を目的に、施設間で人事交流を行うこととしております。

実施にあたっては、県医師会、県産婦人科医会、県助産師会、教育機関、行政等の協力を得て、協議会を設置し取り組んでいくことになります。協議会に先立ち、10月31日（木）に分娩取扱医療機関の看護管理者間で情報交換を行いました。

2 「福島県外避難者の心のケア事業」の実施（委託）

この度、福島県より被災者の心のケア事業の一つとして「福島県外避難者の心のケア事業」を山形県看護協会が受託をしました。現在、山形市と米沢市の避難者支援センターと連携をし、「まちの保健室」開催の準備をしているところです。

「まちの保健室」の内容は、避難者の背景や心情に配慮しつつ、講話やハンドマッサージ等を組み合わせ、当面は事務局職員2～3名で月1回の訪問を計画中です。

協会立訪問看護ステーション活動

断水！―その時訪問看護ステーションでは

訪問看護ステーションまいづる所長　齋藤千香子
訪問看護ステーションむらやま所長　鳥村　順子

平成23年3月11日の東日本大震災を経験し、6つの訪問看護ステーションがそれぞれにつくっていた災害対策マニュアルを、平成23年11月に統一化を図りました。7月18日に発生したゲリラ豪雨による7日間の断水に対し、初めて統一マニュアルを活用しましたが、タイムリーで迅速な利用者への連絡・職員一致団結しての対応・訪問看護の工夫ができました。また市外利用者の善意により飲料水の差し入れと旅館の入浴提供があり乗り切ることができました。

今後の災害時対応の課題として、マニュアルの定期的な見直し、断水時の対応への追加（ポリタンクの確保・市販飲用水の常備・雨水溜める容器など可視化）、市町の防災計画における訪問看護ステーションの位置づけの明確化や連携方法、平常時からの危機管理意識の強化や備品の確保などがあげられます。

7月18日ゲリラ豪雨による対応（18日～27日）経過（天童市、村山市　地域差あり）

	訪問看護ステーション対応
7月18日（木）	19日より断水の連絡入り、職員手分けして利用者宅連絡
7月19日（金）	市の広報車　断水の連絡が利用者届かず職員が連絡 断水の影響で訪問内容の変更（入浴を清拭に切り替える等） 給水所の設置・広報車巡回、飲食店営業停止、レンタルトイレ設置
7月20日21日	一部の企業より生活用水の提供あり、飲食店営業中止が目立つ
7月22日（月）	独居利用者に連絡し安否の確認 夜間全面断水の連絡あり、再度利用者宅に電話連絡
7月23日（火）	完全断水利用者は特に問題ない。洗濯物不可、使い捨て用品の利用 市内ポリタンク完売・市内一世帯10リットルの給水制限 市外職員が水持参・軽トラック借用し山形市内に給水に行く
7月24日（水）	精神的不安定になった利用者にボランティア訪問 居宅に対して、独居・高齢者世帯への飲用水を訪問配布の依頼
7月25日（木）	通水なったが、赤水確認で飲料出来ない 市内少しずつ通水なってきているが、事務所内断水つづく
7月26日（金）	村山市内全地域復帰
7月27日（土）	天童市内全地域復帰

◆平成26年度入会・会費納入のお願い

看護職能団体としてますます発展するよう、1人でも多くの入会をお待ちしております。

年 会 費　**14，000円**（日本看護協会費含む）
納入期限　**平成25年12月25日（水）**までの納入にご協力ください。
入会は10月くらいまで**随時**できます。
入会通知に添付した**（様式1）**を添えてお願いします。
看護職賠償責任保険に入る方は日本看護協会会員登録が必要です。
入会手続きを先にされるようお願いします。

不明な点がありましたら、総務課小関（023-685-8033）までご連絡ください。

◆山形県看護協会会館閉館及びナースセンター休業のお知らせ

いつも会館及びナースセンターをご利用いただき、ありがとうございます。**12月29日（日）より翌年1月3日（金）まで会館を閉館**させていただきます。**12月28日（土）及び1月4日（土）は15時まで開館**いたしますので、ご利用ください。また、ナースセンターは12月28日から1月5日までお休みとなります。ご不便をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

Vol.123

うちの自慢のナースマンⅢ ファイナル

健康でバランス重視の生活へ

山形徳洲会病院　武田 好史

私は、日常生活を送る上で「ワークライフバランス」を大切にしています。仕事と生活の両方を楽しみながらバランスを重視し、互いにプラスになるよう心掛けています。現在仕事は苦労しながらも看護研究に取り組んでいます。私生活ではパンやワインが好きなので、県外までパン屋さん巡りをしたり、自宅でワインに合う料理を作ったりして過ごしています。

目標に向かって

山形市立病院済生館　浅沼 雄一

脳神経外科病棟の副看護師長として3年目を迎えています。現在は病棟の教育担当と看護部の教育研修に携わっています。看護の質の向上や根拠のある看護を実践していく事を目標に、師長や周囲のサポートを受けながら頑張っていきたいと思います。

CVPPPのインストラクターとして

山形さくら町病院　佐東 一幸

病棟の電話が鳴る。「佐東さん、部長からです」「来た…暴力か?出番だ!。」自分の役割にCVPPPインストラクターとして、スタッフが安心して仕事ができるように研修の場を設け、サポートしていく使命がある。私も悩むし大変である。でも仲間が安全にかつ安心して働ける環境をより一層充実させたいという強い思いがあるし、やりがいもある。そんな俺のことをひとはスーパーマンと呼ぶ。(笑)

～Enjoy Life～

篠田総合病院　成澤 健

看護を学んだ母校のある山形に戻り1年半が過ぎました。今では家族4人、賑やかに過ごしています。
一度臨床を離れており、山形に戻ると同時に臨床に戻りましたが、独身時代とは違う臨床ライフ、学生ライフ、そして、家族4人での山形ライフを楽しんでいます。これからもいろいろなライフを家族で楽しんでいきます。

日頃頑張っていること

北村山公立病院　本間 淳一

昨年、呼吸療法認定士の資格を取得しました。院内研修会を通し呼吸ケアの質の向上を目指します。また、フィジカルアセスメントを勉強中です。六感と聴診器等を活用し患者さんの身体が透けて視えるまでに発展させ看護に活かしていきます。これからも勉強し続ける立派なナースマンになろうと思います。最後に勉強する環境を与えてくださる看護部、家族に感謝していま～す。

今頑張っていること

山形県立新庄病院　秋葉 喜大

私は透析室に勤務して10年目になります。透析装置が更新し、異動してきた方々の新しい風に吹かれ、透析療法・看護も年々変化するなか自分の出来なさを痛感し、透析看護とは?と考えながら日々勤務しています。他部署の経験が浅く焦りもありますが、今後はより専門性を目指せればなと思います。また、DMATとして災害訓練に参加しており、透析室で活かせればと頑張っています。現在やんちゃ盛り子育て奮闘中です。

Forza！オーロ・ベッタ

山形県立鶴岡病院　清水 義人

私は県立鶴岡病院の急性期治療病棟に勤務している看護師です。現在は来年度新設移転に向け、各領域ごとのワーキンググループで活発な討議をしています。また、当院では週に一度患者さんを対象としたフットサルを始め、スポーツ精神医療の治療効果をめざし職員も一緒になって楽しく活動しています。

患者さんと共に

日本海総合病院　土門 修平

看護師となって早1年半が経ち、現在泌尿器科病棟で勤務しています。新米の私にも、多くの患者さんから声をかけていただきます。同性だからこそ気兼ねなく話せること、分かり合えることもあるのだと思います。　男性の自分だからこそ輝ける場面を見つけ、今後も感性を磨いて患者さんから信頼される看護師になりたいです。

子育て

公立高畠病院　安部 良人

私が今頑張っていることは4歳の息子の子育てです。彼はいま恐竜に夢中で、毎日私と恐竜ごっこ等をして遊んでいます。今年は幼稚園の役員になり行事にはほぼ参加しています。時には褒め、時には叱りそのさじ加減が難しいなと痛感している所です。息子を始め家族の支えがあってこそ仕事にも打ち込めます。患者さんにも自分の家族同様の目線でこれからも接していけるよう努めていきたいです。

日々耐え忍んで

公立置賜総合病院　高橋 大輔

近年、徐々に男性看護師が増えており、喜ばしいことです。しかし、総合病院の一般病棟においては、まだまだ男性勢力が弱いものです。長年築いてきた女性社会は厳しいもので、この中で生きていくには、できるだけ目立たないように平凡が一番だと日々考えております。定年まで残り3分の2、果てしない修行が続きそうです。

少人数でも成せばなる！

三友堂病院　田中 裕行

私が勤務する手術室は現在13名。その中で男性は、看護助手と私の2名のみで、まだまだ少ないですが毎日頑張ってますよ♪
当院手術室の自慢は、何と言っても「チームワーク!」チーム医療に、先輩後輩の壁なんて必要なし!各手術終了後に毎回チームで振り返りをして、切磋琢磨に励む日々です。
もう一つの自慢は「若さ」ですが、私自身が平均年齢をあげているのであしからず…。

男性看護師の養成に携わって

山形厚生看護学校　学校長　後藤 マキ子

錦繍の美しいこの頃、本年度卒業予定の79名の就職も内定し、また入学試験を迎える季節となりました。

私は昭和40年から現校の看護教育に係り、多くの学生と実習施設の方々から学ばせて頂いてきました。平成４年４月開校の三年課程では1,430名の卒業生を送り、昭和45年から平成６年３月閉校の二年課程では900名、昭和27年から平成４年３月までの准看護科は1,993名が巣立ちました。男子学生は昭和43年にはじめて３名が入学してきました。以来どの課程にも男子が入学しました。平成６年（1994年）、全問男女同一の新カリキュラム国家試験が導入になり、母性看護実習で出産場面を学んだ学生の「家に急いで帰り、母に感謝したい」との言葉から、実習の真価は得られたとうれしいことでした。

今まで、男子卒業生が看護部長、師長、看護教員として現職にあったり、歴代同窓会長として母校のために活躍しています。三年課程で185名の男子学生が入学しましたが、男女ともに看護界を支えていかれるよう期待しています。

毎年、威勢のよい花笠踊りを披露
（中央・後藤マキ子校長を囲んで）

★支部活動★

●庄内支部の活動状況

庄内支部長　**叶野　真弓**

川村会長からのメッセージ

酒田・鶴岡支部が統合し、新たに「公益社団法人山形県看護協会　庄内支部」としての活動がスタートしました。

第1回記念研修会は、6月29日（土）「なの花ホール」にて開催し、253名の方に参加いただきました。初めに、山形県看護協会川村良子会長より「庄内支部発足にあたってのメッセージ」として地域に根ざした看護職の果たす役割について、“自ら学び自ら育つ姿勢が重要である”とご講演をいただき、公益性を自覚して役割を発揮していきたいとの思いを強くしました。引き続き、ドリームフィールド代表の阿部侑生先生より、「がんばりすぎる人のためのコミュニケーション術」と題して、実技を交えながらコーチングについて学び、2倍の笑顔で、プラスの言葉を使うことで毎日が変わると実感する事ができました。参加者の満足度が大変高い研修でした。

笑顔は2倍で！　阿部先生

「まちの保健室」事業として、10月6日（日）「鶴岡市民健康のつどい」では、健康相談・乳癌自己検診・白衣体験等の企画に述べ395人、10月13日（日）「たちかわ秋まつり」では、健康チェック・白衣体験等の企画に、述べ145人の方々に参加していただきました。特に鶴岡では、参加者アンケートで心に残った団体として看護協会が一位と発表されました。これは、日々の業務に対する姿勢がそのまま市民の方に届いたためとうれしく思いました。また、地域の方々の健康増進に対する意識の高さに触れ、看護の果たす役割を実感する機会となりました。

昨年も参加！　ミニナース達

今後も、役員の業務内容の整理と改善を図りながら、多くの方に参加していただけるような企画をしていきたいと考えています。酒田・鶴岡それぞれの良い面を引き出し合いながら、庄内支部の活動の充実を図っていきたいと思います。

●置賜支部活動を通して

置賜支部長　**工藤 真紀子**

置賜地区は、高畠・長井・白鷹・小国・米沢等自然豊かな地区が集まった地域です。10月末各地では台風の被害で多くの犠牲者を出し、3.11以来自然の大きな力に手も足も出ない中、飯豊の山々は何事もなかったようにすでに雪を被っておりました。

山形県看護協会が公益社団法人となり新たに事業を進める中、各支部も協会の事業に基づき活動を工夫していかなければならないと考えます。今年度は主に2回の研修会と3回の「まちの保健室」を計画し、終了したところです。まちの保健室は地域に根付いた活動を目的に開催場所を3か所（飯豊めざみの里・イオン米沢・ハイジアパーク南陽）とし、その地域の担当者が中心となり実施しました。地域の方とふれあい、それぞれの専門性を十分発揮し協会としての目的に沿って達成できたと考えます。今年度、まちの保健室、市民セミナーへの参加、看護学校の戴帽式などを体験させていただきましたが、そのなかで看護協会員としての役割の大切さも知ることができました。来年度は現在の活動を継続していくことは勿論ですが、各施設での取り組みを共有し支部活動に役立てられないか、地域の活動に参加しながら私たちの役割を発揮する事はないか等検討しながら26年度の計画をたてる必要があると思います。さらに、4支部との情報共有も深め活動の充実をはかっていきたいと考えております。

川村良子会長講話（米沢伝国の杜にて）

まちの保健室（ハイジアパーク南陽にて）

第45回日本看護学会−在宅看護−学術集会のお知らせ

◆メインテーマ：「つなげよう　ひろげよう　在宅看護」

<ビジョン>

疾病・障害を持ちながら生活している患者と家族が地域でその人らしく安心して生活していくために、わたしたちは一歩を踏み出し、看護の力を高め、保健・医療・福祉の連携を図り、つなげ、ひろげていく。

日　時：平成26年10月2日（木）〜3日（金）
場　所：山形テルサ

技術交流会や県民公開講座を企画しています。
多くの方の参加をお待ちしております。

理事会等報告

平成25年9月5日（木）　午前　第5回理事会

主な審議事項

1．平成25年度山形県健康福祉部との業務推進懇談会における情報交換について
2．平成25年度地区別法人会員会・職能委員長会「山形県」開催について
　＊10月22・23日開催
3．公益社団法人に伴う訪問看護ステーションやまがた・総括室の維持管理費について＜承認＞

平成25年10月11日（金）　第6回理事会

主な審議事項

1．平成26年度山形県看護協会通常総会・職能交流集会日程について　＊平成26年6月19日（木）　＜承認＞
2．山形県看護協会推薦委員会の委員数について
　＊現在の6名のまま　＜承認＞
3．支部規則の一部改正（案）について　＜承認＞
4．山形県看護協会と4支部との確認事項の一部改正（案）について＜承認＞

平成25年11月12日（火）

1．第１回監査
2．第３回支部長会議
　１）支部の運営と活動について
3．第２回支部会計担当役員打合せ

8月〜11月までの山形県看護協会事業実施状況

平成25年8月17･18日（土･日）
酒田市飛島「まちの保健室」連絡船欠航につき中止

平成25年9月1日（日）
山形県・鶴岡市合同総合防災訓練

平成25年9月5日（木）PM
山形県健康福祉部との業務推進懇談会

平成25年9月11･12日（水･木）
平成25年度看護職のWLB推進ワークショップ

平成25年10月5日（土）
福島市飯坂「双葉町仮設住宅」でのいも煮会（事務局ボランティア）

平成25年10月5日（土）
平成25年度医療と介護の連携を考える多職種情報交換会

平成25年10月10･11日（木･金）
酒田市飛島「まちの保健室」連絡船欠航につき中止

平成25年10月19日（土）
認定看護管理者セカンド・サード教育課程修了者実践報告会
〜めざす看護のハーモニー〜

平成25年10月20日（日）
チェリアフェスティバル山形2013に参画

平成25年10月22･23日（火･水）
平成25年度地区別法人会員会・職能委員長会議

平成25年10月24日（木）
医療安全管理者交流会

平成25年10月25日（金）
山形県看護実習指導者講習会フォローアップ研修

平成25年10月31日（木）
山形県における助産師出向支援モデル事業実施に関する会議

平成25年11月8日（金）
平成25年度山形県看護研究学会

平成26年度山形県看護協会　改選役員及び推薦委員並びに支部役員
平成27年度日本看護協会　代議員及び予備代議員への立候補・推薦について

選挙管理委員会からのお知らせ

平成26年6月19日（木）に開催される平成26年度通常総会（於:山形県看護協会会館）において、山形県看護協会の改選役員及び推薦委員並びに支部役員、平成27年度の日本看護協会代議員及び予備代議員の選挙を実施いたします。下記の通り、立候補、受付期間についてお知らせいたします。

＊改選役員名･人数

＊役員任期は1期2年。（但し、任期半ばで交代した場合は併せて1期とする）
1･副会長候補者1名、常任理事候補者1名、書記担当理事候補者1名、会計担当理事候補者1名、訪問看護総括理事候補者1名、監事候補者1名、助産師職能理事候補者1名、看護師職能理事Ⅰ、Ⅱ候補者各1名
2･支部理事候補者（山形･最北･庄内）各1名
3･推薦委員候補者3名
4･支部役員
　･山形支部　副支部長候補者　1名、書記担当役員候補者　1名、会計担当役員候補者　1名
　･最北支部　副支部長候補者　1名、書記担当役員候補者　2名、会計担当役員候補者　2名
　･庄内支部　副支部長候補者　1名、書記担当役員候補者　1名、会計担当役員候補者　1名
　･置賜支部　副支部長候補者　2名、書記担当役員候補者　1名、会計担当役員候補者　1名
5･代議員候補者　8名、予備代議員候補者　8名

＊受付期間など

立候補される方は正会員3名以上の推薦を受けて、立候補届出書（様式第1号）及び立候補者推薦書（様式第2号）を選挙管理委員長あてに届け出てください。

様式第1･2号の届け出用紙は、ホームページからダウンロードするか山形県看護協会事務局に申し出てください。（☎023-685-8033）

「届出先」〒990-2473　山形市松栄1-5-45
山形県看護協会選挙管理委員長　あて

「届出締め切り日」平成26年3月20日（木）郵送の場合は当日消印有効

＊選挙期日及び場所

平成26年6月19日（木）　山形県看護協会会館

推薦委員会からのお知らせ

山形県看護協会の次期役員、平成２６年度の推薦委員、及び平成27年度日本看護協会代議員及び予備代議員の候補者について、会員各位におかれましては、次の項目に該当する方をご推薦ください。

なお、推薦していただく方々につきましては、推薦委員会で協議の上、候補者として推薦を確定させていただきます。

＊選挙する役職名及び定数

（選挙管理委員会からのお知らせと同じ）

＊注意事項

あらかじめ、ご本人の意思を確認した上でご推薦ください。

「届出先」〒990-2473　山形市松栄1-5-45
山形県看護協会推薦委員長　あて

「届出締め切り日」　平成26年1月31日（金）

＊推薦書が必要な方は、山形県看護協会事務局にお問い合わせください。

ナースセンターだより

訪問看護eラーニングを活用した 訪問看護師養成講習会

昨年度から開催した日本訪問看護財団「訪問看護eラーニング」を活用した訪問看護師養成講習会も2年目となり、今年度は、受講者15名が現在頑張っています。

「人工呼吸器を使用する利用者の呼吸管理」と「緩和ケアの実際」、「在宅における終末期の看護」の公開講座も大変盛況で、関心の高さが伺えました。

また、「施設医療から在宅療養への移行～日頃の実践から思うこと～」をテーマにディスカッションする機会を設け、訪問看護師と病院看護師それぞれの立場からの情報交換を行いました。

現在、協会立訪問看護ステーション6ヶ所、山形県立中央病院と三友堂病院での緩和ケア病棟の実習に取り組んでおり、11月28日には閉講式を迎える予定です。

在宅人工呼吸器の演習風景と訪問看護ステーション実習の様子です。

平成２５年度「ふれあい看護体験」

5月12日は看護の日

平成２５年５月１２日(日)～１８日(土)の「看護週間」に、県内の病院・診療所・福祉施設・訪問看護ステーション７９施設において、ふれあい看護体験が行われました。今年度は、高校生４５８名、一般の方５名の合計４６３名が参加しました。参加者より、「いい経験になった」「やりがいを感じた」等の感想をいただき、また将来の夢への決意を固めたという方もおりました。

参加者の感想と各施設よりいただいた写真をまとめた「ふれあい看護体験感想文集」もできあがり、参加者、参加施設、病院等へ配布しました。

公立置賜総合病院

老人保健施設のぞみの園

介護老人保健施設さくらパレス

米沢市立病院

介護老人保健施設リバーヒル長井

上山病院

【朝日町立病院】での看護体験

山形県立谷地高等学校　安藤 美穂

まずナース服を着ることができていい体験ができました。今回は、患者さんの足を洗ったり、ベッドのシーツを交換したりする看護師の立場と、車イスに乗って病院の中や外を移動する患者の立場の２つを知ることができたので、とても勉強になりました。ここの病院は地域医療ということで、地域のことをよく知り、患者さんの身近な存在である看護師に私もなりたいと思いました。この経験を活かしていきたいです。

【介護老人保健施設舟形徳洲苑】での看護体験

山形県立新庄神室産業高等学校　阿部 瑠那

私はこの看護体験を通して、介護の大変さ、看護師の仕事について考え方をもっと改めないといけないと実感しました。看護師さんがやっていた仕事は、本当にミスが許されない仕事だということがよくわかりました。やっぱり、生半端な気持ちでは務まらない仕事だし、何よりもコミュニケーション能力が大切だなと感じました。医療の専門的な知識、もっと知りたいです。このようないい体験ができて、本当によかったです。

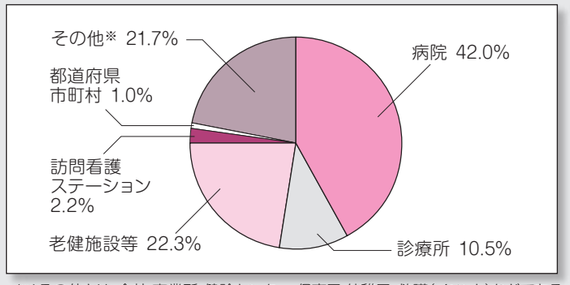
【本間病院】での看護体験

山形県立鶴岡中央高等学校　本間 茜

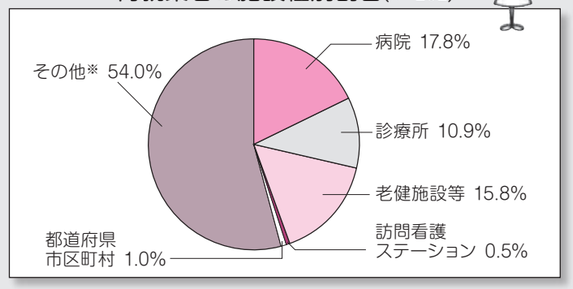
今回のふれあい看護体験では、足浴や食事介助、レクリエーションなど患者さんと接したり、車イスやストレッチャーで散歩など患者さんの立場になってみたりと、いろいろな体験をさせていただきました。看護体験を通して、患者さんの事を一番に考え行動し、常に笑顔でいることが大切だとわかりました。今回の看護体験で学んだことを、これからの進路に活かし、看護師になれるように頑張ります。

平成25年度上半期山形県ナースセンター事業実績

求人登録者の施設種別割合(N=1,100)

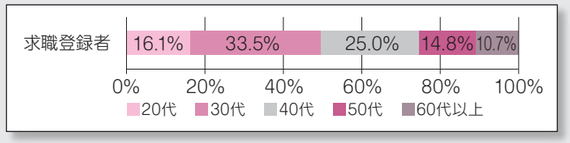


再就業者の施設種別割合(n=202)

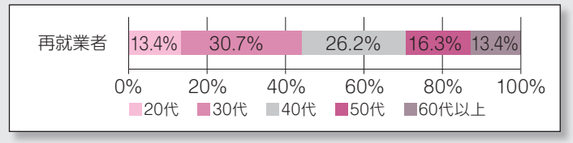


(※)その他とは、会社･事業所、健診センター、保育園･幼稚園、救護(イベント)などである。

求職登録者年代別割合 (N=609)



再就業者年代別割合 (n=202)



山形県看護職就職ガイドブック2014を発行しました!! 県内64病院を掲載

この度、山形県看護職就職ガイドブック2014を発行しました。
昨年の58病院に新規6病院を加え、64病院を掲載しております。
病院の概要をはじめ、特色、病院長、看護部長・総看護師長、スタッフからのメッセージ等が満載です。訪問看護ステーションのご案内と県内の訪問看護ステーション一覧も掲載しております。HPにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
⇒http://www.nurse-yamagata.or.jp/employment/list.html

e-ナースセンター に登録しよう!!

スマートフォンからぜひご登録ください

山形県看護協会HPから、登録票をダウンロードできます。郵送・FAXでも受付しています。

①こんな時は必ずナースセンターへご連絡ください。
1) 就職先が決まった時（自己就職・職安就職も含む）
2) 氏名・住所・電話番号が変わった時
3) 求人施設で採用が決まった時や、充足した場合

②登録有効期間は、求人・求職ともに6ヵ月です。
継続の場合は更新の手続きが必要ですので、ご連絡ください。

携帯サイト 山形ナースセンターだより を活用しよう!!

QRコードから求人情報をチェックしてみよう！

詳しくは、PC・携帯から
「山形ナースセンターだより」を検索!!

山形ナースセンターだより　検索

山形県ナースセンターにおける求職登録

職種別登録状況　　平成25年11月8日現在

職　種	保健師	助産師	看護師	准看護師	合計
登録者数	18	8	193	34	253

内訳（登録253名のうち）
未就業登録者　125人
就業中登録者　125人
有資格学生登録者　2人
無資格学生登録者　1人

山形県ナースセンター（山形県看護協会内）
e-mail:yamagata@nurse-center.net 直通☎023-646-8878

いきいき職場紹介

目指せ！「きらりと光る地域の病院」

キラリと光るナースたち！

町立真室川病院　看護師長　佐藤　弘美

真室川町は山形県の最北端、秋田県との県境に位置しています。町立真室川病院は、平成14年10月新設された真室川町の医療・福祉・介護の拠点「ヘルスセンター真室川」に移転しました。病床55床、内科・整形外科に加え、週2回の耳鼻科外来があります。

私達は、「チームワーク良ければミスもなし」の合言葉のもとに、患者・家族の皆様に心から満足していただける看護を目指して、救急医療から訪問看護まで地域の皆様に必要とされる病院作りに、日々精進しています。院内に退院支援部門は完備されていませんが、施設内に併設されている町の福祉課・地域包括支援センターとの連携を密にして、ケースに応じた退院支援を模索しています。フレッシュナースから59歳ナースまで個性豊かな集団で、小規模ながらも「きらりと光る地域の病院」でありたいと、職員全員が明るく活き活きと勤務している、そんな活気あふれる職場です。

産後のママと赤ちゃんの交流会（ウィメンズOB会）のご紹介

さとうウィメンズクリニック　渋谷　美代子

スタッフ全員笑顔でサポートします

こんにちは。天童駅西の産婦人科、さとうウィメンズクリニックです。開院から地域に根ざし、皆様に親しまれる医療や看護を目指して、今年で10年目に突入しました。今回は産前産後のケア・サポートの一貫として行っている、産後のママと赤ちゃんの交流会（ウィメンズOB会）について紹介します。2010年8月に開設し、対象は産後1ヶ月～1年のママと赤ちゃんで、毎週水曜日の午後に行っています。週ごとに月齢を分け、ママ達がメインとなり会をすすめ、育児経験のあるスタッフがファシリテーターとして育児やおっぱい相談などを無料で行っています。また、体重測定や足型、写真のプレゼントをしています。特に母親同士の情報交換・ママ友作りの場として活用され、リピーター率も高いです。一歳頃で終了になりますが、その後もママ達の交流は続いているようです。今後も皆様に愛され、喜んでいただけるようなサポートを実践していきたいと思います。

3.11の被災者支援

山形県看護協会事務局職員ボランティアによる 福島市飯坂「双葉町仮設住宅」でいも煮会を開催

いも煮を囲んでピース！

10月5日（土）小雨の中、8名のボランティア隊は3台の車に60人分の食材と道具、飲み物、お菓子、漬物等を積んで出かけました。

11時に仮設住宅に到着した時は、すでに集会場に10名以上の方が待っていてくださいました。小雨でしたが、住民の方に屋外でのいも煮の情景を見ていただきたくて、すぐ調理に取り掛かりました。いも煮の火の回りには傘をさしてたくさんの方が集まり、「福島では豚肉のみそ味なので、山形式が楽しみ」と盛り上がりました。

「頑張っています！」
阿部恵子さん.

食事は集会場となりましたが、「いも煮」と新米の「つや姫のおにぎり」は大好評で、住民の方には大変喜んでいただきました。また、寒さに向かう季節、体も心も温まっていただきたいという願いが伝わり、住民の方との交流も深まりました。

いも煮会実施にあたり、調整役をしてくださった阿部恵子さん、カンパ（現金と食べ物）やボランティアとして協力いただいた事務局の皆様に感謝いたします。（O隊員記）

川村会長・協会職員と双葉町の方々

◆図書室休室のお知らせ

蔵書点検のため下記期間は休室になります。
【期日】平成26年1月20日（月）～24日（金）

編集後記

ご好評頂いた「ナースマンシリーズ」は、11 月号のパートⅢをもちまして終了とさせて頂きます。ご協力頂いた皆様へ心より感謝申し上げます。来年度は、一般の方にも楽しんでいただける内容を目指していきたいと思います。今後とも「山形いぶき」をよろしくお願い致します。

山形いぶき YAMAGATA IBUKI
山形いぶき 第123号 編集／広報出版委員会 発行／平成25年11月30日 公益社団法人山形県看護協会 〒990-2473 山形市松栄1-5-45(アルカディアソフトパーク山形内)TEL023-685-8033